

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）  
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

「認知科学的転回」とアイデンティティの変容

研究テーマ名

脳機能亢進の神経心理学によって推進する「共生」人文社会科学の開拓

責任機関

国立大学法人筑波大学

研究実施期間

平成29年10月～平成32年9月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者兼グループリーダー	小山 慎一	筑波大学・芸術系・教授
グループリーダー	緑川 晶	中央大学・文学部・教授
分担者	山本 早里	筑波大学・芸術系・准教授
分担者	首藤 文洋	筑波大学・医学医療系・講師
分担者	井手 正和	国立障害者リハビリテーションセンター研究所・脳機能系障害研究部・研究員
分担者	重宗 弥生	中央大学・文学部・研究員

配分（予定）額

（単位：円）

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
2,925,000	4,972,500	4,095,000	1,170,000

※平成30年度・平成31年度・平成32年度については予定額

研究目的の概要

従来の神経心理学は脳損傷部位と脳機能低下の関係を詳しく調べることによって脳と心の関係の理解に貢献してきた。本研究課題では脳機能亢進という新たな視点から神経心理学を推進し、人文社会科学・デザイン・芸術に応用することによって「共生」人文社会科学という新たな研究領域を開拓するとともに、感覚が過敏な若年者・高齢者と健常者が互いに理解しあい、今まで以上に能力を発揮できる社会を作ることを目指す。

## 研究計画の概要

研究は3つの研究フェーズと2つの研究グループ（若年者グループと認知症・脳損傷グループ）に分けて実施し、過敏性を有する人々にとっても住みやすい住環境の構築と、「共生」社会作りのための学問領域の創成を目指す。Phase 1（H29年度・H30年度）では各グループで神経心理学的手法を用いた敏感さが生じる仕組みの解明を行い、Phase 2（H30年度・H31年度）では敏感な若年者および脳損傷・認知症患者が住みやすい環境を実現するためのデザイン制作を行う。Phase 3（H31年度・H32年度）ではその検証を行い敏感な人でも住みやすい新たな「共生」社会作りのための学問領域の開拓と提言を行う。